

★今週の聖句

「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

ルカによる福音書 6:36

★ねらい

・「敵を愛しなさい」というイエスさまの教えから、神さまの愛について、また私たちが実際神様から受けている愛について学ぶ。

★説教作成のポイント

- ・この箇所の段落は、イエスさまが「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にきなさい」という言葉から始まっている。つまりこの部分の教えの要点は、神さまが悪人にも善人にも憐れみ深く、すべての人を愛してくださるように、私たちが自分を愛してくれる人だけを愛するのではなく、イエスさまに倣ってもっと広くて自由な愛へ私たちに招くのである。
- ・自分が好きな人は大事にし、自分が嫌いな人は憎むような、多くの場合の「人間の愛」と、イエスさまを通して表れる「神の愛」の違いについて考えて見る。
- ・イエスさまを通して一人ひとりが受ける愛はどのような愛なのか、また私たちはその愛を受けるにふさわしい、完全な一人なのかふり返ってみる。
- ・ここでイエスさまの教えと、この後のイエスさまの受難と十字架の死との関連性を考えて見る。

★豆知識

- ・この箇所は、ルカによる福音書ではイエスさまが弟子たちと一緒に山から降りて、おびたしい民衆に対して教えられた場面の一つ、マタイによる福音書では「山上の説教」として記述されている中の一つの教えである。
- ・「敵への愛」という概念は、受けた分報いるような昔からの交換原則による愛、自分たちの仲間同士での愛ではなく、それらを超えている愛である。「敵への愛」という表現は、旧約とユダヤ教の教えの中からも似ている部分が見られるが、敵をも愛するというイエスさまの教えが実現されることで神の国も実現するという教えは、まったく新しいイエスさまの教えである。

★説教

私たちが住んでいるこの地球に無くてはならないものがたくさんあります。空気、水、土、植物…。地球の生き物が生きるために絶対必要いろいろなものの中で、今日も私たちに日にちが変わって朝が来たことを知らせてくれるもの、植物たちが育つために、緑になるために無くてはならないもの、電気など人工的な光ではなく私たちに自然の光を届けてくれるもの、しかも私たちが知っている限り、一番明るくて大きなエネルギーを届けてくれるもの、それは何ですか？

これだけ聞いたら、だいたい何について言っているのか分かりますね？そうです。太陽です。太陽から出て来る日差しはすごいと思います。太陽はいくつもある訳ではなくただ一つだけなのに、地球上にいる数えきれないほどのたくさんの生物がこの太陽からのエネルギーと光を受けています。太陽に向かって隠れることさえなければどんな植物も、どんな動物も、もちろん人も、太陽の恵みを受けることができます。まさに太陽は神さまのようです。

実はイエスさまもこれに似たようなお話しを、昔々多くの人々に話されていました。神さまはすごい！神さまはただひとりだけど、みんなを憐れんでくださる！その中には善い人もいれば悪い人もいて、神さまに感謝する人もいれば恩を知らない人もいるけれども、神さまは悪い人も、恩を知らない人も憐れんでくださると教えていました。

私たちは違いますね。私たちはだいたい自分に良いことをしてくれたり、かわいがってくれたりする人を自分も大事にして、自分とあまり合わないとか、迷惑だと思われたりする人は嫌いです。もちろんそうでない人もたまにいますけど…。

このような神さまのすばらしい愛は、神さまの独り子であるイエスさまをとおして人々に表わされました。イエスさまは後に、ご自分を憎む人、いじめる人、苦しめる人たちに向かって、同じく憎んだりやり返したりせず黙々とその苦しみを死ぬまで受けたのです。それは父なる神さまが彼らを赦すためでした。それでどんな悪人も罪人も、実は私たちがイエスさまによって神様に赦され、憐れみを受けることが可能になったのです。

だから、イエスさまは多くの人々に向かって教えられました。「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者になりなさい」。誰でも神さまの赦しと憐れみは受けています。それを知っている人として、ただ自分を愛してくれる人だけではなく、たとえ敵であっても愛してあげなさいと。それがイエスさまをとおして私たちにも届いている本当の愛なのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

56番

31番（改訂版）

やってみよう

☆世のため人のためカードをつくろう

<用意するもの>

トランプ位の大きさの紙(人数分)

①カードにどんなことをしてもらおうと嬉しいか考えて

1人1枚書いてみましょう。

②カードを裏向けにして、1人ずつ順番に1枚カードを取ってもらい、

書いてあることを発表する。

③自分がひいたカードに書いてあることをこの1週間のうちに実行してみましょう。

みんなの書いたカードを大きな画用紙などに

貼っても良いですね。

神さまは、何もできない私たちに、聖霊の力を与えてくださいました。

この聖霊の力によって、何もできない私をできる者へと変えてくださるのです。

話してみよう

・今日の聖書の中には、イエス様が「〇〇しなさい」という言葉がたくさん出てきますが、どんな事が書いてあるか聖書の中から探してみましょう。

・さて、みんなはイエス様の「〇〇しなさい」がいくつできるかな？(本当にはできない自分を自覚する。)

・ 憐れみ深い神さまとは、どんなお方が考えてみましょう。

★今週の聖句

「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。」

ルカによる福音書 6:38

★ねらい

・自分が裁判官みたいに他の人々を自分の基準で裁くのではなく、神さまが憐れみ深いように私たちが他の人々に対して憐れみ深く、寛大に生きる必要を感じる。

★説教作成のポイント

・6章37節「人を裁くな」から始まる今回のみ言葉は、他人への憐れみ、赦しが大きなテーマである。ところでこの文脈の中での「与えなさい」とは、物質的な援助・支援の意味での「与え」というより、他人を赦す意味での「与え」である。

・私たちが神さま、そしてイエス・キリストによる大きな愛と赦しを受けているのに対して、自分が他人に対して厳しくなっていたり、自己中心的な形で他人を評価し裁いたりする過ちを犯していないか、ふり返る。またそのような過ちが実際自分自身にどういう形で返ってくるか考えてみる。

★豆知識

・38節に描かれている、「押入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして」という表現は、売り手が買い手に対して升をいっぱい満たしてくれる行為。つまり買い手の支払いに対していっぱい、それ以上にもたせようという気になっている様子を表現しているのである。私たちが他人に対して憐れみ深いなら、神さまはそれ以上わたしたち一人ひとりを憐れみ深く愛してくださることを例えている。

★説教

イギリスのある村にパン屋さんがありました。そのパン屋さんの主人に毎朝、パンの材料としてバターを納めて生活する貧しい農夫が一人いました。ある日パン屋さんの主人は毎日農夫から貰っているバターの量がすこし少ないかも知れないことに気付きました。そしてバターの量を秤で計ってみたら定まっている量よりバターの量は少し足りませんでした。これに怒りを覚えた主人はその農夫をすぐ告発しました。それで貧しい農夫は裁判を受けるために裁判官から調査を受けることになりました。

裁判官はその農夫から色々事情を聴きました。そこでパン屋さんの主人が知らなかった事実が一つ出てきました。貧しい農夫の家には秤がなかったのです。秤をもっていない農夫は毎回バターを作って、パン屋さんの1ポンド分のパンの大きさに合わせてバターを切って包装し、パン屋さんに送っていたのです。実はあるときからかパン屋さんの主人は自分の利益のために1ポンドのパンの量を減らしていました。農夫はもちろん減らされたパンの量に合わせてバターを送ることになり、それを知らなかったパン屋さんの主人は農夫のバターの量が少ないことを告発したのです。

これは誰の過ちでしょうか？パン屋さんの主人にとっては結局、自分の利益のためにパンの量を減らした結果が自分に返ってき、しかも農夫に対して厳しかったことで自分の隠し事が明らかにされてしまった訳です。私たちが誰かを責めたり、憎んだりすること、それはいつか自分に返ってくるということを教えてくれる話です。

逆に他の人々に対して優しく、憐れみ深く振る舞うなら、それを見てくださる神さまはさらに大きく私たちが憐れんでくださいます。今日の「与えなさい。そうすればあなたがたにも与

えられる」というイエスさまの言葉の意味は、私たちが他の人々を厳しく責めるのではなく、赦す心と憐れみをもって接するならば、それがいつか私たちに返ってくること、そして神さまも私たちの過ちに対して憐れみ深く赦しを与えてくださるというメッセージです。

実際イエスさまは、私たちの過ちと罪を代わりに背負って十字架の苦難を受けられたのです。それだけですでに私たちは計り知れない大きな憐れみと赦しを受けています。そのような憐れみと愛を受けている人として、それを自覚している人として、私たちも自分以外の人々に憐れみ深く、赦しと優しさを「与える」人になることを心がけるべきでしょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

129番

106番（改訂版）

やってみよう

☆コラージュをつくろう

<用意するもの>

模造紙(5～6人の場合：人数によっては半分の大きさに切ったり調節してください。)

新聞、古雑誌、チラシなど、のり、はさみ、マジック

・テーマ「神さまから与えられているもの」(みんなで、1枚の模造紙を用います。)

テーマに合うものを雑誌などから切り取ってどんどん貼っていきます。

貼り方も書き込みも自由です。どんな作品ができるかな？

☆6月の第2曜日は、「花の日」です。

お花を持って、近くの老人ホームなどの施設を訪問したり

いつもお世話になっている教会の方に

お花をプレゼントしても良いですね。

話してみよう

・今日のみことば「与えなさい。そうすればあなたがたも与えられる。」とはどういう意味か考えてみましょう。

・良いことをした分だけ、自分にも良いことが返ってくるのかな？

・たとえば、お友達からおやつを分けてもらったらうれしいよね？じゃあ、今度は自分のおやつをお友達に分けてあげたら、お友達は嬉しい？お友達が嬉しそうにしていたら、みんなも嬉しい？

・神さまから与えられているものってどんなものがあるか考えてみよう。

・すでに、ありのままの私たちが神さまは愛されているのです。

★今週の聖句

ひと言おっしゃってください。そして、わたしの僕をいやしてください。

ルカによる福音書 7:7

★ねらい

- ・イエスさまの言葉の力を信じる百人隊長の信仰を学ぶ。

★説教作成のポイント

- ・この物語の中で描かれている百人隊長の人物像について把握する。
 - ①彼はユダヤ人からすると異邦人であった（4～5節）。しかしユダヤ人を抑圧する異邦人ではなくユダヤ人のために会堂を建ててくれるほどユダヤ人を愛してくれた人である。そしてユダヤ人の長老たちからも信頼されていた。
 - ②彼の発言から、彼は謙虚で忠実な人であったことが分かる。「わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。…ひと言おっしゃってください」（6～8節）
 - ③イエスさまに対する彼の心はまさに信仰であった。イエスさまのその信仰を認めたのである。「イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない。」（9節）

★豆知識

- ・百人隊長とは、当時ローマ軍において歩兵小隊長に相当する階級で、定員100名の軍団を指揮する立場の軍人であった。
- ・福音書の様々な記録の中でイエスさまと同じ民族でありながらもイエスさまを受け入れなかったユダヤ人たちの姿に対比されつつ、むしろ異邦人である百人隊長の信仰が優れていることが表れている。同時に異邦人でもイエスさまを信じればその信仰が叶うというメッセージを示している。

★説教

それぞれの言葉には言葉の意味と共に、その言葉がもつ力があります。たとえば、何か悲しいこと、寂しいことがあるとき、誰かからなぐさめのひと言を聞いたり、励ましてくれる言葉を聞いたりすると、自分の気持ちが変わったという体験をしたことがありますか？すぐ思い出すことができなくても、実際私たちはたくさんの人からの言葉に助けられながら生活しているはず。特に自分に言葉を与えてくれる相手が自分を良く知っていて、自分にとって大切な人ほど、その言葉は自分にとって力と影響を与えます。

人の言葉でもそのような力がこもっているくらいなら、私たちに命を与えてくださった神さまの言葉ならなおさら大きな力があります。聖書は、この世界が造られたのは神さまからの言葉によるものだと記しています。創世記の記録によると、初めに神は「光あれ」と言われたことで、そのとおり光がこの世に存在するようになりました。そしてその光を初めとして、空、地、植物、太陽と月、動物、そして人…すべてが神さまの言葉の力によって、神さまの言葉どおりに造られたのです。

またヨハネによる福音書では「言（ことば）は肉となって、わたしたちの間に宿られた」（ヨハネ1：14）とあります。ここで肉となって言（ことば）とは、実はイエスさまのことです。天地を創造した神さまの言葉がやがて人の姿になって、世の人々に大切なことを伝え、また命を伝えるために送られたのが、神の独り子イエスさまなのです。

世の人々は、神さまの独り子として現れたイエスさまをすぐ信じたわけではありませんでした。むしろ多くの人々はイエスさまが伝えていることを自分たちの思いで否定し、その言葉を受け入

れませんでした。しかし中にはイエスさまの言葉にすごい力があることを信じ、それに頼って従った人たちもいました。その中の一人が今日の聖書に登場している百人隊長です。彼は自分の下に百人の部下を指揮している軍人でした。その部下の一人、特に重んじていた部下が病気で死にそうになったので、彼はユダヤ人の知り合いをとおしてイエスさまにお願いします。実は彼はユダヤ人ではなかったので、ユダヤ人であったイエスさまにお願いするために、自分が知っているユダヤ人たちを使いとして送ったのです。彼はユダヤ人たちのために結構良いことをしてくれていたようで、彼のユダヤ人の知り合いたちも彼のために熱心にイエスさまにお願いをしました。

しかもイエスさまに対する彼の信頼はすごいものでした。わざわざイエスさまが自分のところまで来なくても、ただイエスさまからのひと言があれば自分の僕は治ると信じていました。死をもたらす病気さえも従わせる力がイエスさまの言葉の中にあると信じていたのです。彼が信じているとおりでした。イエスさまは、天地を創造された神さまから遣わされた、この世の真の言葉だからです。

姿が見えなくてもイエスさまの言葉にはこれほど大きな力があり、またその言葉は今私たちが読んでいるこの聖書の中に納められています。もちろん私たちも、百人隊長がイエスさまのひと言に助けられたように、イエスさまの言葉から力を受けることができます。イエスさまの言葉を心から信じることでその力は与えられます。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

6 番

3 2 番（改訂版）

やってみよう

☆好き好き伝言ゲーム

- ①みんなで輪になって、手をつなぎます。
- ②百人隊長を1人決めます。
- ③百人隊長は、好きな数だけ隣の人の手を「ぎゅっ」と握ります。
- ④最後の人は、握った数だけ「好き」といいます。
1回なら「好き」2回なら「好き好き」3回なら「好き好き好き」
- ⑤正解したら、百人隊長が変わります。

百人隊長のように、人を愛するという気持ちは、不思議なことに周りの人々の心をどんどんあたたかくして、伝わっていきますね。

☆今日は、父の日です。お手紙やカードを書いて感謝の気持ちを伝えましょう。

話してみよう

- ・百人隊長は、どんな人だったでしょうか？
- ・百人隊長は、イエス様のことをどのような人だと思っていたのでしょうか？
- ・百人隊長のように、自分以外の人を愛し、お互いに思いあえたらどんな気持ちでしょうか？
- ・みんなにとって、教会のお友達は特別な存在ですか？

★今週の聖句

イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。

ルカによる福音書7:14

★ねらい

・ひとりのやもめの悲しみに寄り添い、その息子の命を取り戻したイエスさまの姿は、人々が熱望した救い主そのもの、復活の主である。

★説教作成のポイント

- ・ここに登場するやもめは、やもめであるゆえにすでに夫は失っていて、さらに一人息子の死によって悲しみ泣いていた人である。ここでイエスさまは誰かから頼まれたからではなく、やもめの悲しみを御自ら憐れに思い、寄り添われた。
- ・やもめの一人息子は死にかかっていた状態ではなく、すでに死んだ状態である。ここで死に打ち勝つ復活の主としての力がすでに現れている。
- ・後のイエスさまのご自分の復活とも関連して考える。

★豆知識

・この物語でイエスさまの奇跡を目撃した人々の反応、「大預言者が我々の間に現れた」（16節）は旧約の預言者エリヤとその弟子エリシャが死者を生き返らせたことから由来する（王上17:7~、王下4:32~）。こうしてイエスさまは旧約時代から言い伝えられ、待望されてきた約束を具体的に実現する。

★説教

人の力では乗り越えることができない、一番大きな悲しみは死です。どのような人であれ、自分にとって大切な人の死をいつかは経験するしかなく、また自分自身もいつか死ぬしかない、それが私たちです。

今日、この物語の中に登場するやもめはすでに夫を失ったまま生きてきた女性で、彼女に残されたおそらく唯一の家族、一人息子さえもすでに死んで棺の中に入れられて運ばれているところでした。その棺が向かう場所は墓であり、大切な母親と永遠に別れる場面でありました。

そのところをイエスさまが通って行かれました。死んだ息子の母親であるやもめはもちろんそれに付き添っていた人々も大きな悲しみの中にあっただけでしょう。イエスさまは死によって一人息子を失ったやもめの悲しみ、またそれを見守る人々の悲しみをただ見過ごすことでは終わらせません。

先週、百人隊長の僕をひと言でいやしたように、命の力に溢れる言葉をもって、やもめに「もう泣かなくてもよい」と慰め、死んだ息子に対して「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と命じられたのです。人に命を与えた神さまの独り子として、命の力をもって死んだ息子を生き返らせ、やもめにお返しになりました。

イエスさまこそすべての人の命を憐れんでくださる方です。そして憐れに思うことで終わるのではなくその命を取り戻してくださる方です。だから私たちはイエスさまを救い主としてあがめ、イエスさまにすべての希望を託します。私たち一人ひとりにとって大切な人の命、また自分の命が死ぬことによって悲しみに終わるのではなく、命を与えてくださった神さまの力によって新たに生きることを望むのです。すべての人の命の始まりと終わり、そのすべては神さまのみ手の中にあります。その真実がイエスさまをと

おして示されています。そして後にイエスさまはご自分の死と復活をもって私たちにはっきり教えてくださるのです。神さまからの命は死で終わることがないことを。また一人ひとりの命にイエスさまが共にいてくださることを。

★分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

119番

114番（改訂版）

やってみよう

☆くるくるうちわを作ろう

<用意するもの>

直径20センチくらいの丸い画用紙(1人2枚)、わりばし、セロテープ、のり、マジック

①1枚に泣いている顔を描く。もう1枚には、笑った顔を描く。

②片側に笑った顔、片側に泣いた顔がくるように、1枚の裏側にわりばしをセロテープで貼り付け、もう1枚の裏側と合わせて、のりで貼りあわせる。

※画用紙のかわりに、発泡スチロールを使うと立体的になるよ。

イエス様は、悲しいときも「泣かなくていいよ。大丈夫だよ。」って言ってくださいます。イエス様によって、私たちはニコニコ顔に変えられるのです。

話してみよう

- ・たった1人の息子をなくした母親（やもめ）は、どんな気持ちだったでしょう？
- ・イエス様に、「もう泣かなくてよい」と言われた母親の気持ちを考えてみましょう。
- ・イエス様と出会う前の母親とイエス様と出会った後の母親の人生は、どんな風が変わったか話してみよう。

★今週の聖句

イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

ルカによる福音書 7:50

★ねらい

- ・神さまを愛する者を神さまは赦すということを、イエスさまと罪深い女との関係から確認する。

★説教作成のポイント

- ・なぜイエスさまは「罪深い」と言われている女の人を赦し、しかも「安心して行きなさい」と励ましているのか、その理由について考える。それはこの女の人がイエスさまを心から愛しているからである。
- ・ここに登場するイエスさま、ファリサイ派の人、罪深い女、三人を比較してみる。それぞれが大事にしている点は何か、そして神さまが認め、受け入れてくださる点は何かについて。結局は神さまへの愛があるか、ないか、それを神さまは見ておられる。
- ・「この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさで分る」と言われたイエスさまは最後に「あなたの信仰があなたを救った」と女の人に宣言する。ここで「信仰」を他の言葉に置きかえるなら、それは神への「愛」であろう。

★豆知識

- ・当時の中近東では客が入っている家に他人が入っても異例なことではなく、普通のことである。
- ・福音書にたびたび登場してくるファリサイの人は、律法に厳格な姿勢とっていた人で、自分たちの生活はもちろん当時のイスラエルの人々を厳しく指導していた立場であった。
- ・ここに出て来る女の人がどんな罪を犯したのかは記されていないが、「罪深い女」と決めつけられていることから、おそらくその町の娼婦であろうと思われる。彼女のイエスさまに対する行為、足に接吻し、香油をぬるという行動は相手への尊敬と感謝のしるしである。それと同時に涙を流していたことから、彼女の自分の罪に対する痛悔そしてイエスへの溢れるばかりの愛が表わされている。

★説教

みなさんは過ちを犯したことがありますか？自分は一回も間違ったことをしたことがない、誰かに悪いこと、誰かを失望させるようなことはしたことがないと言える人はおそらくいないでしょう。そう言える人がいるなら、それはまだ本当の自分について知らないだけかもしれません。

人が色んな形で間違いと過ちを犯してしまう以上、誰かに赦される必要があります。私たち一人ひとりもきっと今までかなりの回数、誰かに赦されてここまで来ているはずです。

自分が赦される、赦された理由について考えたことがありますか？自分にとって身近な、大切な人を例にして考えて見ましょう。自分のお父さんやお母さんから自分が赦される理由は何ですか？自分の間違いを認めたから、同じ過ちをしないと約束したから、自分の行動を変えたから…色んな理由が挙げられるかもしれませんが、おそらく一番大きな理由はどんなに間違ってもお父さんやお母さんあるいはその他の大切な人からあなたは大切なひとりであり、愛されているひとりであるからです。そうです。私たちが赦されることは私たちが愛されていることです。自分が愛されているということは、自分の行動が正しかったのかそうでないかより重要な理由です。もし愛されていなかったら、私たちは何か間違いをしてしまったことで、もう赦されないかも知れません。

「罪深い女」もそうでした。この女の人が周りの人からはどんなに無視され、どんなに悪く言われていたにしろ、イエスさまにとっては愛する大切なひとりでした。しかもこの女の人にもイエスさまを心から愛し、自分の罪深さを後悔していることが彼女の行動から分ります。当時のイスラエル人からすると、足に接吻するとか、香油を塗るとかは、愛し尊敬する人への尊敬と感謝の表現だったのです。しかもこの女の

人は泣きながらそうしていたのです。切実な気持ちの表れでしょう。

それは、彼女への愛がないファリサイ派の人にとっては分からないものであったみたいです。ファリサイ派の人はむしろ今まで彼女のやってきたことや正しさだけが基準になって、心の中でこう思っていました。「この人（イエスさま）が本当に預言者ならこの女が誰で、どんなに罪深いのか分かるはずなのに…」

しかしイエスさまは違います。もちろん女の人がそれまでやってきたことをすべてを知っておられるイエスさまはご存知です。しかしイエスさまにとっては彼女の過去より、彼女が今心から自分の罪を後悔していること、しかもご自分への心からの愛、それがもっと大事だったのです。だからイエスは彼女に言われます。「あなたの罪は赦された」。「わたしに示してくれた愛の大きさが分かる」。「安心して行きなさい」。

この女の人に対するイエスさまの気持ちと言葉で、私たちに向けられる神さまの愛が表れています。私たちがどんなに足りなくても、過ちが多くても、神さまを愛する私たちの心を神さまは知っていてくださって、私たちを赦してくださるのです。それが、神さまの独り子、イエスさまをこの世に送られた理由でもあるのです。私たちを赦すために。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 3 番

1 1 9 番（改訂版）

やってみよう

☆違うとこさがし

- ・ 2人ずつでてきてもらい、違うところをあげてもらおう。（できるだけ、タイプの違う子どもおし）
- ・ じゃあ、逆に似ているところはどんなところかな？
- ・ 写真などで、違う国の子どもや老人、病気の人などを紹介して自分たちと違うところを探してみても良いですね。
- ・ みんな一人一人ちがうけど、みんな神さまの愛するこどもなんだよ。うれしいね。

☆よろこびハートをつくろう

<用意するもの>

画用紙、絵の具

- ①画用紙を1度半分に折って開き、ハートを描く。
- ②ハートの外側に、うれしい気持ちを言葉で書く。（ウキウキ、ワクワク、ありがとうなど）
- ③片側のハートの半分に、好きな色の絵の具を何色か直接、押し出すようにつける。
- ④半分に折って開くとできあがり！

神さまの大きな愛が、世界中のみんなに伝わるように、お祈りしましょう。

話してみよう

- ・ 今日の聖書に出てくるシモンさんと罪深い女の人ちがうところはどんなところかを話してみよう。（シモン…正しい人、まじめな人、毎週礼拝に行っていた人など
女の人…悪いことばかりしてきた人）
- ・ では、二人の同じところは何だと思いますか？（二人とも神さまから愛されている）
- ・ イエス様に罪を赦された女の方は、どんな気持ちだったでしょう？